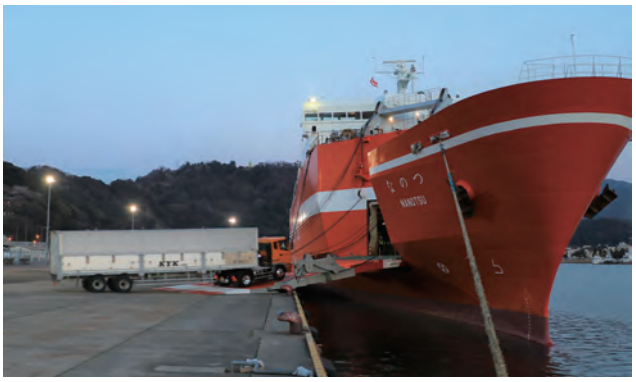
県政 HOT NEWS

恐竜博物館 通算入館者が1000万人を突破
― 年間入館者数も過去最多を記録 ―

数多くの実物恐竜化石を展示したり、新種の恐竜化石を相次いで発見するなどして、全国的な知名度を高めてきた県立恐竜博物館。2000年7月の開館以来順調に入館者数を伸ばし、3月31日に通算1000万人を突破しました。

2018年度の年間入館者数も、93万8310人で過去最多を記録。年間入館者数100万人突破を目指して今後も展示内容の充実を図るほか、恐竜の魅力を全国に向けて発信してきます。

敦賀港が日本海側有数の物流拠点に
― 敦賀港～博多港の定期貨物船航路が開設 ―



敦賀港と博多港を結ぶ定期貨物船の新航路が、4月1日に開設されました。日本海側では、本州と九州を結ぶ唯一の航路。苫小牧港を行き来するこれまでの航路と合わせ、敦賀港は、北海道から九州をつなぐ重要な中継地となりました。

新航路に就航するのは、トレーラーやトラックが貨物を載せたまま乗降できるRORO船。敦賀港では夕方に荷役をして夜に出港するため、県では照明設備とフェンスを整備し、安全に作業ができるようにしました。

大野市でのドクターヘリ運航に向けて
― 和泉地区で実機訓練を実施 ―

医師や看護師が同乗して現場に急行し、傷病者の治療にあたるドクターヘリ。昨年9月に運航を始めた嶺南地域では、早期治療や搬送時間の短縮などの効果が現れています。

県では新たに、岐阜県のドクターヘリを大野市和泉地区で共同運航することを目指しています。3月19日には実際のヘリを用いた訓練を実施。消防職員が事故現場でヘリの出動を要請するところから、到着したヘリに傷病者を乗せるまでの手順を確認しました。

小松空港から海外への玄関口が拡大
― 香港との定期便が就航 ―

小松空港と香港を結ぶ定期便が、4月3日に就航しました。小松空港の国際路線は、ソウル、上海、台北に次ぐ4路線目。10月26日までの間、水曜日と土曜日に1往復ずつ運航されます。

就航日には、あわら温泉の女将や県・市町の職員が、香港から来た乗客を空港で歓迎。パンフレットや記念品を渡して、福井県の観光地や魅力をPRしました。

県では小松空港を「福井の空の玄関口」と位置づけ、今後も利便性の向上に努めます。